

第八回 (社福) 淳風会事例発表会 開催のご挨拶

社会福祉法人 淳風会
理事長 西村良廣

令和元年 6 月 16 日 (日) 事例発表会を開催いたします。
ご来賓の皆さま、ご来場の皆さまにはご多用の中お運びいただき篤く御礼申し上げます。

本年のテーマを「淳風会における地域連携の実状について」とさせていただきました。

昨年 7 月、前回の第七回事例発表反省会時に発信した本年のテーマですが、添付したスタッフ向け補足説明に「皆さんの部署における地域連携とは何か?」「具体的な取り組みは?」「成功例・失敗例」「今後に向けた課題と方策」など挙げました。

何のための (誰のための) 連携か? によって関わり方は様々でしょう。

最近、豊中市 (他都市でも進行中) 医師会主導による取り組みを知りました。

ICT=Information and Communication Technology (情報通信技術) の活用によって「A さん」支援のためのチーム内情報共有と交換が飛躍的に進んだという例です。豊中市が提供する無料のソフトを使用して

- ① 事案ごとに医師を核とした必要職種ของกลุ่มを作る。
- ② 医師・相談員・介護職・看護職・介護支援専門員・地域包括担当者など案件に応じて召集されるグループ内で全員がリアルタイムで情報を発信し、グループ内の誰もがリアルタイムで情報を共有できる。

主治医との連携が非常にスピーディにきめ細かくなり、チーム全員が情報を共有することで、必要かつ望まれる支援を素早く提供し同時に検証できるようになったとのこと。

以上は一例に過ぎませんが、これからは地域連携というキーワードを考える上で、市民 (ボランティアや町内会、自治会活動)・福祉専門職・行政職に加えて IT 専門職・ロボット開発研究職・医学研究職・哲学者・宗教家などの視点を加えた「社会の変容」に対する思想と取り組みの改革が不可欠になると思われます。

皆さまにおかれましては、本年も厳しく温かいご指導を賜りますようお願い申し上げます。第回事例発表会開催のご挨拶とさせていただきます。